8 Writing Series

☆ねらい

この活動の Q&A 活動を通して、様々なパターンの質問文に対して、ふさわしい応答パターンを身につけることができる。また、Small Step を踏んだ各活動に取り組むことにより、応答文を少しずつ長くしたり、Dialogue から Essay へと書く英文の量を自然に増やすことができる。

☆扱う場面

・全学年

・Q&A 活動→帯活動、授業での Warm Up

・＋１sentence→帯活動、授業での Warm Up 、家庭学習

・Dialogue →授業での Warm Up、家庭学習　　・Essay Writing→授業での Warm Up、家庭学習

各ステップの活動毎に時間や場面を区切って、次回はその続きから取り組ませることで効果が高まる。

☆指導の手順と留意事項

学習活動	指導の仕方・留意点等
① Q 文を一斉コーラス	・Q 文のパターンに慣れさせる。
② 説明を聞く。	・生徒の学年や実態に応じて、説明の必要があればおこなう。
③ 応答する際の「コピー箇所」を確認する。	・応答する際のポイントを説明する。 聞かれた言い方をコピーすると良いと伝える。例） What food do you like ? I like sushi. What are you into now? I am into movies. What country do you want to go to ? I want to go to Italy.
④ A 文を書く。	・説明やアドバイスを参考にさせながら、各自でA 文を書かせる。・時間設定あり。
⑤ ペア活動で、A 文＋1sentence を言い合う練習をする。	・各ペアで、Q 文を言い、それに対して自分が書いた A 文にプラス1sentence して答えさせる。 ・時間設定あり。 ・ペアの答え方のパターンからお互い学び合わせる。 ・答え方に自信がない場合は、ペアが教えてもよいと助言する。(学び合いの場)
⑥ A 文＋1sentence を書く。	・自分がペア活動で話した英文を思い出させ、書かせる。 ・時間設定あり。 ・まず A 文を書き、プラスした1sentence を書かせる。
⑦ 教師が Q 文1つを指定し、それを Dialogue 形式にする。	・教師が、1つ選択して選ぶのは、Dialogue になりやすい Q 文がよい。 「指示例）What do you do in your free time? と A さんから聞かれたとする。あなたは B さんになって、会話をつないでいこう。」 ・相づちや同意、確認などの表現も可。種類や表現パターン例を教えておくと生徒が書き進めやすい。
⑧ EssayWriting に取り組む。	・書き始めと終わりのパターンを指示する。 例）Hello, I'll talk about cooking. ----------Thank you. ・Dialogue の形式の Q 文を省くと、A 文だけが残る。それをつないでいきながら、間にさらに新しい文を入れて増やしていくことにより、エッセー文になることを知らせる。